



～がんばった先の笑顔を目指して～

福翔

明治6年7月23日開校

二戸市立福岡小学校 学校だより
発行日 R6. 3. 1
第22号 (文責: 佐藤純子)
二戸市福岡字下川又15
電話0195-23-6155



福岡小学校創立150周年を記念して

金子重正氏の作品が寄贈されました



昼休みに行われた贈呈式に参加してくれた子どもたちと記念写真を撮る金子先生(中央)



2月29日(木)、ピアニストの金子容み(かねこはるみ)さんから、お父上で漫画作家の金子重正氏の作品を寄贈していただきました。

金子容みさんは、本校卒業生で、ここ数年キャリア教育の講師としてピアノ演奏を聞かせてくださっています。また、金子重正氏は、昭和37～40年はPTA副会長、昭和41～47年はPTA会長を務められた方で、福小とは深いかかわりがあります。金子容みさんの「父親の作品を、これからもずっと、できるだけ多くの子どもたちに見てもらいたい。」という願いのもと、本校150周年を記念して寄贈のお話をいただき、お受けしたものです。




作品は、民話や童話などを題材にした、点描画や油絵、切り絵などで、どれも子どもの目を惹く作品です。子どもたちの想像力をかきたて、心を豊かにしてくれることでしょうか。かっこうホールや図書室周辺など、全校児童が目にする場所に飾らせていただきます。

== 金子重正 == (1912-1982)

岩手県一戸町生まれ。東京の美術学校在学中から才能を認められ、童画作家として活躍。昭和20年二戸郡福岡町(現二戸市)に疎開した後は、少年・少女向け雑誌で漫画家として数多くの作品を発表しました。昭和40年頃からは、二戸地方の民話や伝説を題材とした油絵や切り絵を手掛けるとともに、画塾を開き、後進の指導にあたりました。

校歌の意味を知り、大事に歌っていきましょう！

校歌ができたのは、昭和30年。今から68年前です。作詞は、本校校長を務めたことがある武田彩月先生、作曲は、「♪おうまのおやこは～」をつくった、松島 彝（つね）先生です。

<p>三 古城のほとり、芳しく。 人は秀でて、気は高し。 ああ、剛健の名も響け。 よき学び舎。 鏡あり、希望あり。</p> 	<p>二 窓はひらけり、胸高く。 虹呼ぶ流れ、馬淵川。 夜を日をおかず、未遠し。 よき学び舎。 力あり、磨きあり。</p> 	<p>一 開けよ窓を、空ひろく。 雲呼ぶ高嶺、織詰岳は、 いつもけだかし、朝がすみ。 よき学び舎。 光あり、恵みあり。</p> 
---	---	---

歌詞の前半は、「よき学び舎」（いい学校だ）ということを書いてあります。

- 1 番 窓を開ければ、美しい折爪岳が見えるいい学校だよ。希望の光や恵があるよ。
- 2 番 太平洋に続く馬淵川がそばにあるいい学校だよ。子どもたちは磨き合っているよ。
- 3 番 九戸城がそばにあって、優れた人が出ている福岡にあるいい学校だよ。お手本になる人がたくさんいるよ。

<p>三 未来に向かって生きていこう 我等 <small>いざともに、</small> 仰げ行く手を、ここに生きん。 栄えあれ、福岡小学校。 → 輝かしいことがありますように</p>	<p>二 自治の力をつけていこう 我等 <small>すこやかに、</small> 培え自治を、ここに立たん。 規あれ、福岡小学校。 → ルールを守る学校でありますように</p>	<p>一 勉強して伸びていこう 我等 <small>たゆみなく、</small> 励め、進修、ここに伸びん。 幸あれ、福岡小学校。 → いいことがありますように</p>
---	---	--

歌詞の後半には、子どもたちや学校への願いが書かれています。一番伝えたいのは、3番の「未来に向かって生きていこう」ではないでしょうか。福岡小学校校歌は、3番まで歌ってこそ、意味がある歌です。今年の卒業式では、数年ぶりに、校歌を3番まで歌って送り出します。